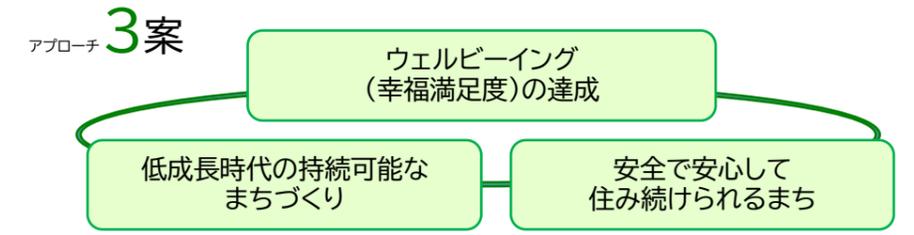
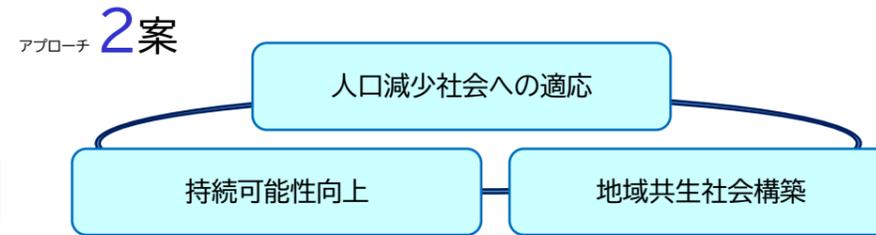
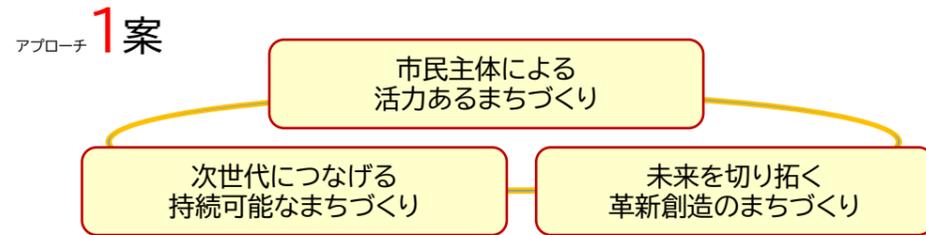


まちづくり構想(案)

(仮称)
第6次阿南市総合計画
基本構想(骨子案)

人口減少社会の中で、これからのまちづくりは、かつてのような右肩上がりの都市規模の拡大・成長を目標とするような方向から、まちに暮らす住民、まちを訪れる来訪者等の多様なライフスタイルや価値観に対応した新しいまちづくりが求められています。本市においても、人口減少に伴い、都市の規模は現在よりも小さくなることが見込まれていますが、だからといって、私たちの暮らしが現在よりも充実感に欠けるものになることは避けなければなりません。
これからのまちづくりは、人口規模の縮小を前提にしながらも、そこに暮らし、そこを訪れる人々の喜びと充実感を現在以上に高め、まちとしての豊かさやまちでの暮らしの満足感がより大きなものになるようまちづくりを進めていきます。



まちづくりの視点

1 市民主体による活力あるまちづくりの視点

人口減少社会を乗り越えていくためには、市章の理念である「創造」「飛躍」「発展」を尊重しつつ、市民、議会及び行政がそれぞれの役割を果たしながら、市民一人ひとりが主体となった自主自立のまちづくりを進めていきます。

2 次世代につなげる持続可能なまちづくりの視点

限られた経営資源を効率的・効果的に活用していく「ビルド&スクラップ」(何をするために何をやめるのか)を行財政運営の基軸とし、SDGsの達成に向けた取組や ICT などの革新技術を社会に取り入れ、地域課題の解決を図る「シビックテック」を促進することにより、人口減少社会においても、誰もが安心して健康で快適に暮らせる生活環境の整備と適切な行政サービスを提供できる持続可能なまちづくりを進めます。

3 未来を切り拓く革新創造のまちづくりの視点

沿岸部の工業団地等に日本有数の企業が立地することの効果を最大限に引き出しつつ、次世代移動通信システム(5G)等を活用した「地場産業の高度化」や「新たな産業の創出」により、若者に魅力ある安定した雇用の場を確保し、まちの活性化と暮らしの質の向上を図っていくとともに、高速交通時代の到来を見据え、立地企業と周辺地域が持つポテンシャルを十分に生かした魅力あるまちづくりを進めます。

1 人口減少社会への適応の視点

これまでのような人口・経済規模の拡大局面において通用していた手法が、これからの人口減少社会においては通じなくなります。
これまでは当たり前とされていた意識や発想からの大きな転換を図ることにより、長期的・広域的な視点の新しいまちづくりを進めます。

2 地域共生社会構築への視点

個人の価値観・ライフスタイルの多様化等を背景に、今後ますます複雑化・多様化・重層化していくことが想定される地域課題を解決していくためには、行政だけではなく、地域に暮らす住民をはじめ、産官学金など多様な層の人材が有機的につながり、地域課題に対応したプロジェクトを推進していくことのできる体制づくりが求められます。地域住民や多様な主体が「我が事」として地域課題の解決に参画し、世代や分野を超えてつながり、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域を共に創っていくまちづくりを進めます。

3 持続可能性向上への視点

グローバル化が進む中で、身近な問題について地球規模で捉えらるとともに、海外・世界の出来事についても身近なこととして考えることの重要性が高まっており、こうした視点から、世界につながるまちとして、多様性と包摂性のある持続可能な社会を構築していきます。

1 ウェルビーイング(幸福満足度)の達成の視点

阿南市では、住民の幸福実感向上を目指す基礎自治体連合(幸せリーグ)に参加しています。まちとしての魅力を生かしながら、市民目線に立った「生活の質」や「環境の質」を高めていくためには、市民一人ひとりが幸せと満足を感じられるまちづくりを進めます。

2 低成長時代の持続可能なまちづくりの視点

これまでのような人口・経済規模の拡大局面において通用していた手法が、これからの人口減少社会においては通じなくなります。地域の実情に応じた多様できめ細かな行政サービスの基盤を充実させながら、社会・経済・環境の面から持続可能を前提としたまちづくりを進めます。

3 安全で安心して住み続けられるまちの視点

今後発生することが懸念されている南海トラフ巨大地震に備え、より実効性の高い防災・減災対策が必要とされます。
総合的な福祉サービスの基盤の整備とともに、行政だけではなく、地域に暮らす住民をはじめ、産官学金など多様な層の人材が有機的につながり、地域課題に対応したプロジェクトを推進していくことのできる体制をつくり、人口減少社会の中で、誰もが住み慣れたまちで安心して暮らすことができるまちづくりを進めます。

政策の柱

- 1 みんなが健康で自立した生活ができるまちづくり (健康・福祉)
- 2 安全で安心な暮らしを実感できるまちづくり (安全)
- 3 豊かな心と生きる力を育むまちづくり (教育・文化)
- 4 地域資源を生かした新たな賑わいと活力を創出するまちづくり (産業・交流)
- 5 自然と調和した快適で暮らしやすいまちづくり (都市基盤・都市環境)
- 6 市民とともに創る持続可能なまちづくり (都市運営)

- 1 安心と安全のまちづくり (健康・福祉・安全)
- 2 快適と賑わいのまちづくり (都市基盤・都市環境・産業)
- 3 学びと交流のまちづくり (教育・文化・交流)
- 4 協働と持続のまちづくり (都市運営)

- 1 誰もが幸せを感じるまちづくり (健康・福祉)
- 2 豊かな心と生きがいを育むまちづくり (教育・文化)
- 3 やすらぎと利便性が共有する安心して暮らせるまちづくり (都市基盤・都市環境・安全)
- 4 活力と賑わいがあふれるまちづくり (産業)
- 5 未来につながるまちづくり (都市運営)